

図書館における学習支援

－ステップ学習の紹介－

山崎裕司、依光朋子、古田絵理
高知リハビリテーション専門職大学図書館

理学療法士、作業療法士の国家試験に合格するには、それぞれの専門科目だけでなく、解剖学や生理学、運動学などの基礎医学、内科学や整形外科学、神経内科学、精神医学などの臨床医学について学ぶ必要がある。その勉強量は膨大で、できるだけ早くから勉強に取り組まなければならない。高知リハビリテーション専門職大学図書館では、これを援助する目的でステップ学習を2021年から取り入れた。ステップ学習では、2冊のワークブックを用いる。このワークブックは、過去に出題された国家試験問題に関連した内容だけで構成されている。つまり、教科書のように全てが網羅されているわけではない。本文、図表には、出題されたキーワードが赤字で示されており、その前には1文字分の空欄がある。ここにヒントをふって、赤シートをかぶせて想起練習を行う。次のページには過去問を分解した○×問題がある。本文、図表の記憶・理解ができていれば解けるようになっている。赤シートをかぶせて問題を解き、日付と正答数を記録する。

ワークブックは基礎医学と臨床医学の2冊からなり、それぞれを16のパーツに分割している。パーツ1を勉強して、小テストを受ける。中級コースは80%以上の正答で合格、上級コースは90%以上で合格となる。小テストの管理・運営は図書館カウンターで行われ、教員の関与はない。学生には図書館のキャラクターが描かれたシールが渡され、名前を書いて16段階の表に張り付ける。そして、合格するたびにシールを動かしていく。

このシステムには、勉強行動を強化するメカニズムが組み込まれている。まず、ヒントを振ることで想起に成功しやすくなる。想起に成功することは学生にとって良いことであり、想起行動が強化される。1問1答問題に取り組んで問題が解けることも良いことである。1パーツが終われば、小テストを受け、合格すればさらに勉強行動が強化される。どんどんパーツが終わっていくことも良いことであり、16パーツへの接近が勉強行動を強化してくれる。2周目になると、1周目との比較が可能になる。1周目の時よりも短時間で、楽に1パーツが終わるようになる。1周目よりも本文中の赤字が想起できる。○×問題の正答率が向上している。これらはいずれも良いことであり勉強行動を強化してくれる。経験上、基礎医学編の1周目を終えた学生は、忘れたくないとの理由から、2周目を回りたい。その際は、まだ手を付けていない臨床医学を1パーツ済ませたら、基礎医学の2周目を1パーツ勉強してもよいというルールを提案する。学生はこの提案を受け入れてくれる。基礎医学の勉強が学生にとって気持ちのよい刺激になっているからだと思う。

ステップ学習の効果はすさまじい。成績中位の学生が参加して、2周目が終了するころになると、成績上位の学生よりも模擬試験の成績が良くなる。3年生であっても国家試験勉強中の4年生と同等の点数を取るようになる。発表では、実際のステップ学習の進め方とその効果について具体的なデータを示して紹介する。